

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 3月 8日

事業所名 みらいスイッチ神埼

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	・3部屋あり、活動に応じて適切なスペースを保てる環境である。	
	2	職員の配置数は適切である	6	0	・人員基準に従っている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	・段差はあるが、車いすを利用される方でも移動は可能	・現在、車いすを利用される方がいない為、判断が難しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	・食育にも力を入れている為、衛生面でも清潔を心掛けている。	
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	1	・毎日朝夕のミーティングや定期的に職員会議を開催している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	・実施したアンケートをしっかりと反映できるように取り組んでいる。	・今後もアンケートを反映できるように取り組んでいきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1	・公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	・月に一度、社内研修を実施している。	
適切 な 支 援 の	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	・契約前に事業所の見学や体験を実施し、その際にアセスメントを行なっている。また、利用開始後も定期的にあセスメントを実施している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1	・HUGを使用し、記録を適切に保管している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	・職員間での情報共有を大切にしながら項目を適切に選択している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	・定期的に計画の見直しを行ないながら一人ひとりに適切な支援が行なえるように徹底している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	・活動を定める会議を開催し、職員が意見を持ち寄っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	・活動やイベントの担当を決め、内容が固定化しないように工夫している。	

提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0	・子ども同士の相性やその時の精神状態を考慮しながら実施するようになっている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	・朝のミーティングで一日の流れを確認し、送迎や支援等の役割分担を行なっている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	・夕方のミーティングでその日の出来事や翌日の業務内容を共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	・その日の出来事を共有することで翌日以降の支援につなげている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	・定期的にモニタリングを実施している。また、必要に応じて実施する場合もある。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	・管理者及び児童発達支援管理責任者が参画している。状況に応じて直接処遇のスタッフも参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	2	・必要に応じて情報共有を行なっている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	6	・現在、受け入れを行っていない。	・受け入れる際には必要に応じて連携を図る。また、配置（看護師等）の見直しが必要である。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	6	・現在、受け入れを行っていない。	・受け入れる際には必要に応じて連携を図る。また、配置（看護師等）の見直しが必要である。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2	・移行支援に限らず、利用者の特性や様子を知る為に情報共有を行なっている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	・事前の情報共有が難しい場合には利用開始時に学校教諭と話をし共有を図っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	・必要に応じて、助言してもらう為に連絡を取ることもある。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5	・機会がない	・今後、交流する機会を設けたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	3		・協議会が開催されれば参加したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	・日々の様子を連絡帳に詳しく記載したり、送迎時に直接保護者と伝え合っている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	4	2	・必要に応じて実施している。		

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	・利用前の見学時や契約時に説明している。支援内容については保護者の意見以上に利用者の意見を大事にしている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	・一人ひとりに合った支援計画を作成し、支援内容の説明を行なっている。また、同意書へのサイン（記名）を頂いている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	・相談があった際にはその日のうちに応じ、必要な助言と支援を行なうようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	3	・保護者参加型のイベントを実施している。	・今後は保護者同士が気兼ねなく情報の共有ができる場を設けたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	・相談を受けた際にはすぐに解決できるように心掛けている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	・月に一度お便りを発行し、家庭に配布している。また、イベントの告知やSNS（インスタグラム）	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	・適切に保管し、外部に持ち出さないように徹底している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	・配布物（お便り、公文書）、HUG、送迎時に口頭でお伝え等、様々な方法で情報伝達をして	
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5		・招待することはできていないが、地域での行事やイベントには参加している。今後も積極的に参加したいと思っている。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	1	・マニュアルを作成し、周知している。	・マニュアルに対する研修を実施し、より知識を深めていきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	・定期的に災害（火災・地震）を想定して避難訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	・見学や体験時に服薬やてんかん等の確認を行ない、適切に対応できるようにしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	6		・現在、食物アレルギーのある利用者が居ない為、今後受け入れがあった際には医師の指示書に基づく対応を行っていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	・事業所内で起きたヒヤリハット以外にも他事業所で起きた様々な事例を用いて情報共有を図っている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	・虐待防止の研修を行なっている。 また、虐待防止委員会を設置している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0		・必要に応じて事前に保護者へ説明し、記録を残す。